



開催にあたって

宮城・山形両県では、個性的で魅力あるふるさとづくりの一環として、総合的な観光振興を進めており、観光レクリエーション施設、文化財及び自然公園等の観光資源の有効活用を図るための各種キャンペーン活動やインターネットによる情報提供等の施策を展開しているところです。

近年、温泉地は、景気低迷や団体旅行から個人旅行へのシフト及び観光需要の個性化・多様化の影響を受け、観光客が減少している現状にあります。

この度、本協議会では国土交通省所管の「平成14年度地域連携支援ソフト事業」の採択を受けて、宮城・山形両県の隣接する温泉地を核とした新たな広域観光エリアの形成を図るためのスリーライン・ツイン・ホットスプリングス構想シンポジウムを行い、地域間交流の促進と温泉地域の活性化、観光産業の振興を進めてまいることとなりました。

今回のシンポジウムが、皆様方の熱意ある御参加により、県境を越えた新たな「地域観光エリア」の形成と「地域活性化」の契機となることを御期待申し上げます。

国土交通省  
 宮城・山形観光推進協議会

PROGRAM

13:00～13:05

挨拶

■主催者挨拶：国土交通省 国土計画局 特別調整課長 **高橋 洋一**

13:05～14:05

基調講演 (60分)

演題「ワンマウンテン・メニーホットスプリングス」  
 ～広域観光エリアの形成と地域認識の視点～

■宮城大学 事業構想学部 事業計画学科 助教授 **宮原 育子 氏**

14:05～14:15

休憩 (10分)

14:15～15:15

パネルディスカッション (60分)

テーマ「県境・行政の壁を越えた“広域温泉郷”とは」

宮城・山形の県境をまたぐ3ルート沿いには、豊かな自然と歴史・文化や名湯が点在していますが、行政区分も異なることから温泉地間の交流や連携は進展しておらず、個々の温泉地がそれぞれ観光客誘致活動を展開しています。

パネルディスカッションでは、それぞれの温泉地を取り巻く環境や地域での活動などを通じて、宮城・山形両県の温泉地間の連携の可能性を模索し、新たな「東西軸観光ルート」の形成を見据えた話し合いを行います。

基調講演

■ 宮城大学 事業構想学部 事業計画学科 助教授 **宮原 育子 氏**



Profile 宮原 育子

東京出身。旅行会社に勤務の後、明治大学文学部、東京学芸大学大学院修士課程を経て、東京大学大学院理学系研究科博士課程を修了。博士(理学)。平成9年宮城大学就任。現在事業構想学部及び大学院事業構想学研究所助教授。旅行事業関係、自然地理学、地域資源論を担当。東北の自然と人の暮らしなど地域資源を活かした観光の展開について、主に宮城県内の市町村をフィールドとして、学生たちと研究調査を行っている。主な研究先は、松島町、栗駒船形地区、丸森町、鳴子温泉、志津川町など。松島町まちづくり委員会委員長、山形県温泉活用検討委員会委員、仙台市景観審議会委員、経済産業省産業観光委員会委員などを歴任。

近年の交通整備や情報化の進展は、地域間の物理的な距離ばかりでなく、旅行者がイメージする距離も縮めている。その意味でも広域的な観光エリアの形成は大変重要な課題といえる。広域的なエリアを形成するにあたっては、それぞれの地域が自らの地域性を大切にしなから、他の地域との自然的、社会的な関係性を認識し、積極的に活用していくことが重要である。

パネルディスカッション

パネリスト

■ 上山温泉旅館組合 組合長 **堺 健一郎 氏【山形県】**

上山温泉旅館組合長、上山市観光協会副会長、上山市観光審議会委員、ゆかたの似合う町づくり実行委員、上山温泉月岡ホテル代表取締役社長。お客様にとっては県境や行政区分概念がないため、これからは特に広域でコースづくりをし、価格帯も吟味してラインナップする商品造成が大切と考える。広告宣伝についても同様。販売チャンネルについても、新たなチャンネルを開拓するなど、検討する必要があるのでは？

パネリスト

■ 蔵王温泉観光協会 常務理事 **岡崎 良治 氏【山形県】**

蔵王温泉観光協会 常務理事。元世界スキー指導者会議日本代表デモンストラーター、元蔵王スキー学校校長。誘客宣伝、ジャズフェスティバル、ツアーマーチ、トレッキング等のイベント事業を通し、温泉・自然・人を活かしたオールシーズンの観光地づくりを行う。今回のシンポジウムでは、宮城・山形の県境を結ぶ広域マップの作成、二次交通の整備について、また統一したサイン計画、共同旅行商品の造成について考えたい。

パネリスト

■ 遠刈田温泉 遠刈田ホテル さんさ亭 代表取締役社長 **大宮 浩 氏【宮城県】**

宮城県観光誘致協議会実行委員長、宮城県旅連理事、遠刈田温泉旅館組合幹事など多数兼任。岩手県生まれ。昭和62年川崎汽船(株)を退社し、遠刈田ホテルさんさ亭に入社した。平成13年3月代表取締役に就任。利己から利他へ、地域の個性を生かした集合体の実現をめざし、点から線、線から面へ拡げZAOブランドをアピールできればと考える。観光業界にはじまり、他業種そして他地域との成熟した依存の関係(ギブ&テイク)を深めていけるようになるよう、話し合っていきたい。

パネリスト

■ (株)ジェイティービー東北新潟商品企画販売事業部国内企画第一課 課長 **清水 隆 氏【宮城県】**

(株)ジェイティービーに入社。郡山支店、本社国内旅行企画部商品計画課勤務を経て、平成12年4月より現職。本社在籍中は、ジェイティービーの国内旅行活性化施策「日本の旬」の基本フレーム策定に参加するとともに、99年度実施の「日本の旬東北」の推進担当者となり、各種施策を策定する。蔵王=スキーというイメージが強く、他の季節の蔵王があまり知られていない現状に、蔵王=温泉=滞在の要素を加味し、オールシーズン、全国から観光客が来る(湯布院のような)エリアにしていきたい。

コーディネーター

■ 宮城大学 事業構想学部 事業計画学科 助教授 **宮原 育子 氏**

※基調講演者プロフィールをご参照下さい。